

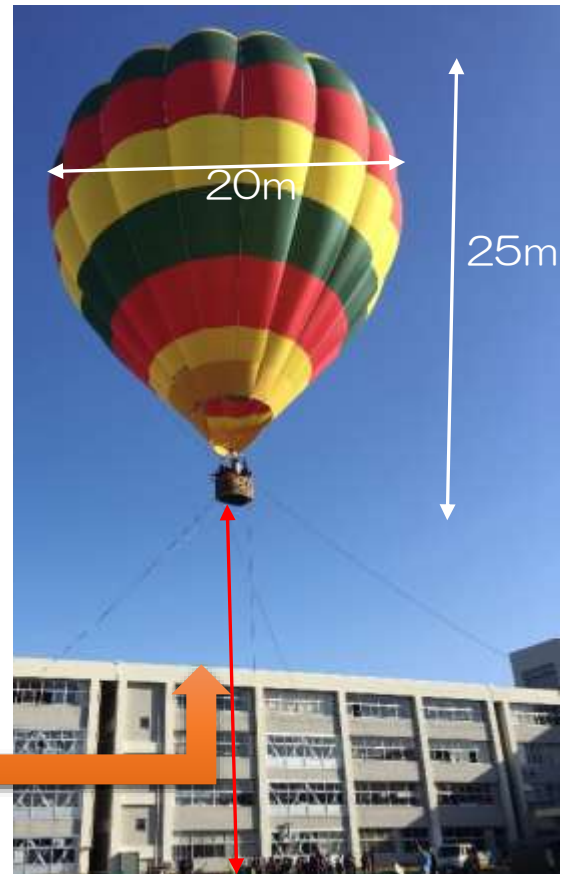
はじめての熱気球へようこそ！

①気球の説明

この熱気球の大きさは、床から天井まで高さが25m、直径は20mもあります。7階建ての建物と同じ大きさが会場の上空で浮いたり降ったりしています。

大人と子供合わせて8人くらいが一度に乗れます。

上がる高さは会場のスペースや上空の風、予報、搭乗予定人数、搭乗料金によって様々です。



②乗り方

スタッフが列の先頭で、搭乗人数をグループごとに区切っています。基本的に相乗りになってしまいますのでご了承ください。

次に、そのグループの中で乗る順番を伝えます。

大人の男性 → 大人の女性 → 子供の順番

乗り降り中に気球が浮かばないように
一般的に大きい重い順番になります。

バスケットにドアがあります。
スタッフが開けたら前の方が降りる前に
まずは左側に一人乗ってください。



今度は前の搭乗者が外から見て右側から一人降りてきます。

乗る → 降りる → 乗る → 降りる

を、時計回りで繰り返します。

③乗ったら

スタッフがドアをロックします。

風による揺れが想定される場合、
内側の赤いロープ状の取っ手を
つかんでください。

パイロットが助言します。

赤いロープ
状の取っ手



背が低いお子さんには、外が見える窓がすべての面に備えてあります。



バスケットの高さは
110cmです

窓の高さは
85cmです

④注意事項

1、ロープは絶対にまたがないで下さい

熱気球は地上の4台の車とロープでつながれています。



ロープは気球が上空や地上時などに関係なく、突然風で気球が動かされ、急にピン！と、張ることがあるので、またがないで下さい。

100kgの体重でもハネ飛ばされてしまいます。
頭から落ちれば重大な事故になります。

会場内は搭乗者以外は立ち入り禁止です。
入場・退出する時は、車の後ろを歩いて下さい。
バスケット付近でロープを交差するときは手で持ち上げてくぐって下さい。
持ち上げれば安全です。



2、バスケットの中での立ち位置と抱っこ

燃料のプロパンガス容器がパイロット側に2本隅にあります。
大人の腰くらいの高さですが、小さなお子さんはちょうど頭の高さになります。
気球が揺れると、頭が当たる恐れがあるので、ガス容器の横に小さなお子さんが来てしまった場合は、大人か大きなお子さんと交代をお願いします。

窓からものぞけない小さなお子さんは、抱っこの方法をスタッフがお伝えします。
揺れるとバスケット内でよろけてしまうので、浮揚中はそのままお願いします。
抱っこひもがあればベターです。 ※主催者の意向により抱っこ禁止のイベントもあります

⑤ 中断

熱気球は風・雨に非常に弱いです！

風が強くなると、気球が風で凹んでしまいあがりません。

地上が穏やかでも、上空の風が強い時もあります。

地上で待機していても、気球が横に倒れてバスケットも横倒しになりそうな前に、残念ですが中断とします。

突風だと気球が凧揚げのタコのように吹き上げられて上がってしまいます。

押さえているスタッフも一緒にぶら下がってしまっていて危険です。

風船部分は濡れると劣化するので、雨も駄目なんです。

また雨水は傘のようにポタポタ横から落ちるのではなく、人が乗っているバスケットにざーっと流れ込んできます。雨雲は突風も伴う時もあります。

雨雲レーダーを見ながらの運行なので、まだ会場では雨が降っていないなくても突然中止することがあります。

バン! と
突風が!



× 中断します



⑥写真の撮り方

「地上からの撮影」

↓ 浮いている気球だけだと、どこで乗ったのか忘れてしまいます(笑)



地上の雰囲気も入れましょう↑

「上空からの撮影」

↓ 巨大な影



ロープを写し込むと浮遊感があります↓



同乗者を撮る場合は、カメラを斜め上から撮影して上空感を加えましょう。

↓ 水平で撮った場合



↓ 斜め上から撮った場合



⑦見どころ

- ① 籐(植物)でできているバスケット、② 衝撃の無い浮遊感、
- ③ バーナーの炎の熱と音、④ 何も無い風船内部
- ⑤ 地上の巨大な影、⑥ すずめや鳩のような目線 などなど



**それでは風が吹かないようお願いつつ、
はじめての熱気球を楽しんでください**